

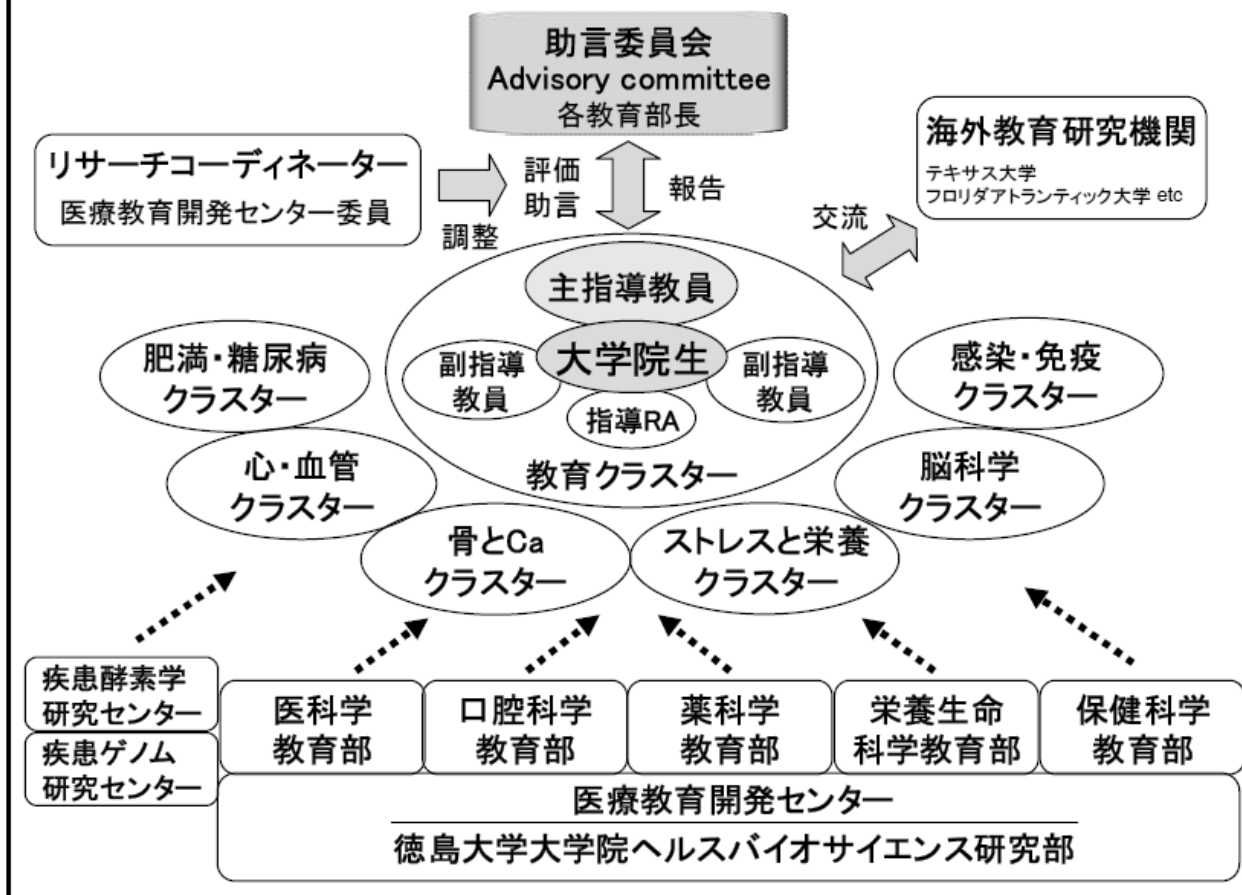
教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	徳島大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	医療系クラスターによる組織的大学院教育		
主たる研究科・専攻名	医科学教育部・医学専攻 [博士課程]		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 玉置 俊晃		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>背景：徳島大学の蔵本キャンパスには、医学・歯学・薬学・栄養学・保健学に跨がる医療系3学部7学科と5大学院があり、酵素・ゲノムの各研究センターと附属病院を加え、多職種にわたる医療人と研究者の養成を担う生命科学の一大教育・研究拠点を形成している。2004年にはこれらを統合してヘルスバイオサイエンス研究部（HBS研究部）が設置され、組織横断的な教育支援のために医療教育開発センターが開設された。医療系5大学院にはe-ラーニング履修可能な共通科目と共通の授業評価システムを導入し、研究活動の紹介セミナーや大学院リトリート等の分野間交流の場を積極的に設ける等、大学院生や若手研究者を中心とした学内共同研究の環境整備を進めてきた。</p> <p>目的：近年、生活習慣病等に代表される疾病構造の変化・多様化を背景に、医療系分野では従来の枠組みでは捉えきれない学際的研究とそれを遂行できる研究者のニーズが増大している。本プログラムでは医療系の全領域を網羅する教育・研究組織がひとつのキャンパスに集約している本学の特徴を活かして、医療系5大学院博士課程から学生を選抜し、所属大学院・専門分野の異なる複数の指導者で形成した教育クラスターが、学生の主体性を尊重した双方向性の指導を一貫して行うことで、領域横断的・学際的研究を自立的に遂行できる世界最高水準の生命科学研究者の育成に取組む。</p> <p>履修プロセス：本プログラムの学生は、医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学、保健科学の各教育部の博士課程入学者から1学年12名程度を選抜し、「コラボレーション・組織柔軟性・学習者中心」をキーワードにHBS研究部や酵素・ゲノムの研究センターに所属する複数分野の教員が指導にあたる。学生は専門科目とともに、共通科目およびクラスター科目を履修し、研究遂行の土台となる幅広い知識と多様な研究手法を身に付ける。同時に専攻分野の主任教授の指導・責任のもとに新規性に富む領域横断的な研究テーマの設定を行う。各教育部長で構成される助言委員会と主任教授は、研究内容に応じて専攻分野を越えて指導教員や指導リサーチアシスタント(RA)を選抜し、大学院生を核とした領域横断型の教育クラスターを形成する。モデル・クラスターとしては既に実績のある「骨とCa」「ストレスと栄養」「感染・免疫」「肥満・糖尿病」「脳科学」「心・血管」の6つのクラスターをまず設定するが、学生の提案によりクラスターは可変的である。教育クラスターの指導者は、それぞれの専門分野を活かして、研究デザインとその実施を指導する。学生は研究成果の中間報告を行い、また、すでに各教育部と交流実績のあるテキサス大学やフロリダアトランティック大学等の海外教育研究機関との研究交流も積極的に進める。助言委員会は、この過程を形成的に評価し、研究テーマ・方法の修正や教育クラスターの再編等の助言を行う。医療教育開発センター委員はリサーチコーディネーターとしてこれら全体の調整を行う。このようにHBS研究部と医療教育開発センターが運営を統括することで、公正性、透明性を保ちながら、学生を中心として「研究計画→実施→検証→改善」を繰り返し、最終的に主任教授の責任で学位論文の作成と学位取得を行う。なお、本プログラムの学生はすべてRAとして雇用し、教員の研究補助を行いながらその手法を学ぶとともに、後進の研究指導を行い、指導能力も身に付ける。</p> <p>本プログラムにより期待できる成果：以下の5点に集約される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 領域横断的研究の遂行能力：複数分野によるコラボレーション指導が一貫して行われることで、多彩な知識と実験手技・研究手法を習得し、領域横断的研究を遂行できる能力が身に付く。 2) 自立的な研究遂行能力：研究テーマ設定や教育クラスター形成など、研究プロジェクトの立ち上げからその検証過程に学生自身が関与することで、自立的な研究遂行能力が身に付く。 3) 国際性：複数の専門分野で構成されるクラスター教員を通じて、所属大学院を超えた海外教育研究機関との交流が常に可能となり、国際性が身に付く。 4) 教育的・経済的支援：学生はRAとして雇用され、教育的かつ経済的観点から、手厚い支援を受けることができる。 5) 研究交流や横断的研究の活性化：大学院生を核として異なる分野の指導者が教育クラスターを構成し、共通のテーマでコラボレーションすることで、分野間の研究交流や横断的研究が活性化し、従来の枠組みでは得られなかった新規性かつ水準の高い研究成果が期待できる。 			

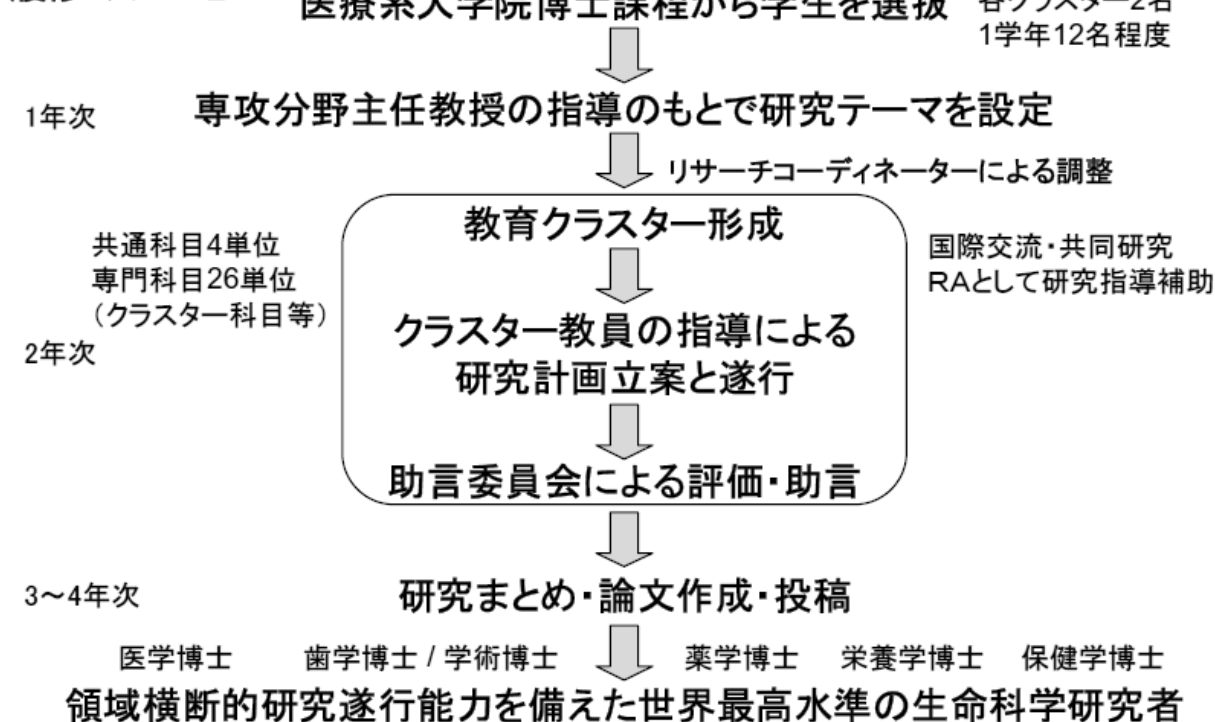
履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

医療系クラスターによる組織的大学院教育

大学院生を核とした教育クラスターの形成



履修のプロセス



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「領域横断的・学際的研究を自立的に遂行できる世界最高水準の生命科学研究者の育成」という、社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿った教育クラスターの形成とそれを評価・助言する助言委員会や医療教育開発センター委員が総合調整を行うリサーチコーディネーターの設置など、体系的な教育課程が編成され、集団指導などの充実した教育体制が整備されている点は高く評価できるが、教育活動の質の向上や改善を図るための教員体制の整備や国際的取組への対応についても、更なる工夫が望まれる。

教育プログラムについては、大学院生の学際的能力を伸ばす教育プログラムとなっており、「領域横断的能力を身につけさせる」という目的を具現化するため、医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学、保健科学の5つ大学院組織を融合した教育実施体制の構築や6つのモデル・クラスターの形成が計画されている点は高く評価でき、これまでにヘルスバイオサイエンス研究部を設置した実績からみても、その実現性、実効性が期待できる。また、全学的な支援体制や本教育プログラム支援期間終了後の大学による自主的・恒常的な取組も計画されていることから、今後の展開が大いに期待できる。ただし、横断的教育プログラムの実施に向けて、5つの医療系領域の有機的な融合に関し更なる具体化が望まれる。